

第 7 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 7 期宇治市生涯学習審議会 第 11 回審議会						
日 時	平成 29 年 2 月 14 日 (火) 午後 2 時 ~ 3 時 30 分						
場 所	生涯学習センター 2 階 一般研修室						
出席者	委員	×	岩井 浩	○	小宮山 恭子	○	西山 正一
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
		×	奥西 隆三	○	清水 桂子	○	向山 ひろ子
		○	木村 孝	×	杉本 厚夫	○	森川 知史
		○	切明 友子	○	長積 仁	○	六嶋 由美子
	事務局	○	藤原 千鶴 (教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	瀬野 克幸 (教育支援センター長)				
		×	富治林 順哉 (教育支援課長)				
		○	今莊 真樹 (生涯学習課副課長)				
		○	前田 暢 (生涯学習課主幹兼生涯スポーツ係長)				
		○	高橋 紀子 (生涯学習課事業係長 (兼) 生涯学習センター主査)				
		○	野口 里佳 (生涯学習課生涯学習係長)				
		○	粕谷 祐次 (生涯学習課生涯学習係主任)				
	○	太田 悠 (生涯学習課生涯学習係主任)					
傍聴者	1 人						

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第 10 回審議会の会議録について

前回の会議録について、以下のとおり修正があったため報告。

会議録 2 ページ上から 18 行目

×訂正前：武蔵野市の方は、自分が中心となって社会教育委員の活動報告を発信していくと話していた。印象的だったのは、牧之原市の委員長が、社会教育委員の役割は行政とのパイプ役であるだろうと話していたことで、私もその通りだと思った。

○訂正後：武蔵野市の方が、自分が中心となって社会教育委員の活動報告を発信していくと話していたのは印象的だった。牧之原市の委員長はじめ皆が、社会教育委員の役割は行政とのパイプ役であるだろうと話していた。その通りだが、宇治市は今期、一歩進めて、動く社会教育委員でありたいと話したが、あまり理解はしてもらえなくて残念だった。

会議録 7 ページ上から 13 行目

×訂正前：この前たまたま、図書館協議会で紹介されたもので、守口市で公民館講座に集まった自主的な活動によって自治体の財政を調べ、冊子にまとめたものを

いただいた。守口市には図書館のような施設があり、市の図書館の位置づけがあいまいで、立地も良くない。まだじっくり読んでいないが、公民館の活動からこういう問題意識を持って、立派な装丁の報告書を作成したということがすごい。図書館を作る計画が工事開始直前で立ち消えになったこともあるが、今は情報開示制度もあるので、考える市民になるきっかけになればいいと思う。

- 訂正後：この前たまたま、図書館関係のつどいで紹介されたもので、守口市で公民館講座に集まった自主的な活動によって自治体の財政を調べた「守口市民 財政白書」という冊子を読んだ。守口市には図書館のような施設があり、市の図書館の位置づけがあいまいなようだ。まだじっくり読んでいないが、公民館の活動からこういう問題意識を持って、立派な装丁の報告書を作成したということがすごい。今は情報開示制度もあるので、自分が住んでいる地域のことを学び、考える市民になるきっかけになればいいと思う。

会議録 7 ページ下から 12 行目

×訂正前：行政は関わっていないようだが費用は結構かかっているようだ。

○訂正後：行政は関わっていないようだ。

1. 報告事項

➤ 平成 28 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

(事務局)

平成 29 年 1 月 20 日(金)精華町むくのきセンターにて開催。研究主題として、「学び合い、支え合う社会教育の推進～幼児から高齢者までをどうつなぐか?～」が掲げられた。山城地方社会教育委員連絡協議会会長である森川委員長の開会あいさつのあと、3 つの分科会に別れ、課題提起とラウンドテーブルを行った。第 1 分科会は宇治が課題提起に当たっており、今期の報告書に向けた『「自立し・自律した市民として活動することの必要性など」についての講演構想について』との課題を森川委員長より提起していただいた。第 2 分科会は城陽市、第 3 分科会は久御山町の課題提起であった。当審議会からは、第 1 分科会に委員長含め 9 人、第 2 分科会、第 3 分科会に 1 人ずつ計 11 人の委員の参加があった。

(委員)

第 3 分科会は久御山町によるあいさつ運動によるテーマだった。何年も続けていて、自分の生きがいになっているような、熱心な方が多かった。あいさつするのは個人の問題だという考えもあったが、最近はコミュニケーション手段として、信頼関係を作るきっかけとして活用されている。市町によっても違うが、各種団体が一本化していないという問題の一例として、各団体からあいさつ運動に参加者が出ているのだが、気象警報が出て学校が休みになった時に、その連絡がしっかり回ってなくて、ずっと通学路に立っていた人がいたという話があった。

(委員)

第 1 分科会では、参加者の意見は成功例や、努力をしたという、前向きなものが多かつ

た。そのような意識を一般に広げていくことに関して、みなさんがどう考えられているのかわからなかった。そのために一歩進んで、講演をしていくという我々の提案は、これから生きてくると思った。一部の人だけが盛り上がるのではよくない。人と関わることがやっかいではないと思ってもらえるよう、仕掛けられるところは仕掛けていきたい。子どもと高齢者が地域に根差せるよう、大人が育て合わないといけないと感じた。

(委員)

第 1 分科会の宇治からの課題提起の内容は、我々はここで議論しているのでわかるが、他の市町には、イメージがつかめず難しかったかもしれない。今の意見のように、これからの課題だと思う。研修会等での発表も、自慢話にならないよう変えていかないといけない。また、他の市町の教育委員会職員の参加者による取組の紹介は、参考になった。

(委員長)

あるベテランの方の意見で、「社会教育委員は、教育長に答申することだけで良い」とはっきり言っていた。私もそうであるとずっと思ってきたし今もそう思うのだが、危機感が募ってきて、そう言っていられない状況になってきていると感じている。自ら動いてみて、どう効果が出るかはわからないが、みなさんの意識を変える何かのきっかけを与えられるよう働きかけたい。みなさんの共感はまだ得られないのかなと感じた。

➤ 平成 28 年宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について

(事務局)

いずれも平成 29 年 1 月 31 日(火)に選考委員会が開催された。ジュニア文化賞は個人 3 件・団体 8 件、ジュニア文化奨励賞は団体 2 件の合計 13 件が受賞、スポーツ賞は各賞合計 36 件が受賞となった。3 月 1 日(水)文化センター開催の宇治市制記念式典で表彰式が行われる。

➤ 平成 28 年度宇治市生涯学習人材バンク研修会について

(事務局)

平成 29 年 2 月 10 日(金)うじ安心館 3 階にて開催した。講師に福知山公立大学地域経営学部准教授 杉岡秀紀(すぎおか ひでのり)氏を招き、「人の心をつかむ広報・集客力アップ講座」と題し、広報と集客の秘訣について話していただいた。当日は、人材バンク登録講師の他に、一般の方を含めて 16 名の参加があった。3~4 人ずつの班に分かれてのグループワークもあり、参加者からは「わかりやすかった」「参考になった」などの感想が聞かれた。当審議会から、1 名の委員に参加いただいた。

(委員)

まず結論から言い、順に説明をしていく流れで話されていたので、非常にわかりやすく、面白かった。また、講師の失敗例を見せてもらったのが、共感を得て良かった。

➤ 第24回市民まなびの集い「宇治まなびんぐ2017」について

(事務局)

平成29年2月11日(土・祝)、12日(日)に生涯学習センターにて開催された。天候があやぶまれたが、当日は晴れて、子ども連れが多数来館された。両日で40団体43コーナーの出展があった。初出展は2団体、人材バンク登録講師の出展は7団体だった。参加人数は出展者、実行委員含め初日約650人、2日目約750人の合計約1,400人だった。

(委員)

引き続き今年も副委員長をさせてもらったが、今年は実行委員の団結が強く、楽しみながら取り組めた。子どもの参加が多く、一生懸命に取り組んでいる様子を見て、ほほえましかった。また、近くの大人が優しく子どもに声を掛けている姿を見て、世代を超えたつながりができるイベントだなと思った。子どもの力はやはり大きいと感じた。

2. 協議事項

➤ 今期の審議報告について

(事務局)

みなさんに作成いただいた報告をまとめて、配布した。今回の会議で出た意見、全体を読んでの変更・修正を集約し、提案部分を委員長に作成していただいた上で、次回の審議会で形にしたものを出したい。

(委員長)

まえがき、提案の部分は書かせてもらうが、提案部分・報告書タイトルについては、今回皆様に議論いただきたい。案として、事務局と考えたものを挙げるが、これらに限らず、自由にご意見を出していただきたい。

「今、社会教育が取り組むべき課題を考える～自立し、自律した市民を育てるためにできること～」

「生涯学習社会の推進のために～自立・自律した市民をどう育てるか～」

「自立・自律した市民を生み、地域を育てるために～社会還元のしくみを考える～」

「自立し、自律した市民を育てるために～社会教育の視点から何ができるか～」

「市民が主役の生涯学習社会 社会還元の枠組みづくり」

(委員)

先日の山城地方社会教育委員連絡協議会研修会で委員長も言っていたように、人の顔を見ないで何でもできてしまう時代であるが、ボランティアや地域活動はその逆であると思う。合理化よりも、人の顔を見て、接することを大事にしていきたいと、最近は考えるようになった。そういう部分も盛り込んでいきたい。

(委員長)

大学の講義で、「人とどう向き合うか」という話をしている。顔を合わせて話をするとい

うことは重要だと思う。そういう意味では、「自立・自律」という抽象的な言葉を使わずに、わかりやすい言葉を入れた方が良くもしいない。

(委員)

私自身の発表が、「自立・自律」というテーマに合っているか自信がない。「自立」と「自律」、委員長はどちらを先に書かれているか。私は「自律」を先に書いている。自分を律することでひとり立ちし、人とつながって、共同体の中で「自立」するものだと感じている。

(委員長)

あまり順序を考えたことはない。「自己肯定」という言葉はあまり好きではないので「自己受容」と言っているが、自分を受け入れることを基本として人と関わることができる。ものごとの認識は自分次第で変わってくるので、理解の仕方を変えないと人との関わりは良くなる。「自立・自律」にはつながらないかもしれないが、順序としてはそう考えている。

(委員)

NPO 法人としての自分の活動と、社会教育をどうつなげていくか考えていたが、以前委員長が言っていたように、世の中で起こっていることを理解し、自分達のできる範囲のことからやればよいと聞いて、少し自分のできるが見えてきたかなと思い、気が晴れた。

(委員)

源氏物語の語りをしていると言うと、「難しそう」「高尚な」と言われることが多いが、集まって好きなことをしている、他のサークル活動と同じものだと思う。「社会教育」「生涯学習」という言葉が難しく、敬遠されてしまうのではないか。生涯学習は、生活に余裕のある人しかできないと言われているが、気持ちがあれば学びはどんな状況でもできると思う。ちゃんと足元で活動しているが、「大したことはしていない」と思っている人たちの意識を少しでも変えることができたらと思う。

(委員長)

確かに、このままではテーマが大きくなってしまふかもしれない。「顔が見える」「足元で」など、そのようなことも入れていかなくてはならないと思う。社会教育委員は、審議会の場で議論をして、教育長に報告・提案するだけで終わるのではなく、できるだけ地域や身近な多くの人にここでの話をしてもらいたいと思う。

参考になるかわからないが、先日親戚の葬式に出た際に感じたが、時々しか顔を合わせない異世代の人との接し方が若い人にはわからないようだ。昔は寄り合いが多く、様々な人との関わり方をみんなが知っていたのだろうが、地方の農村の地域でさえも人が集まる機会が少なくなっている。地域との関わりが本当に希薄になってきており、このままでは日本中が大変なことになると感じた。

(委員)

例えば成人式の実行委員など、一度何かの機会で開催者側になってみると、また他のこともやってみようとなるのではないか。また、社会教育委員は教育長に助言することを忘れてはいけない。最近、地域での活動で「出る釘は打たれるが、出過ぎた釘は引き抜かれる」と感じている。論語で「15 にして学に志す」、「30 にして立つ」などに続き、「60 にして耳順(したが)う」とあるが、これは人の話をよく聞けということらしい。昔の人はよく言ったものだ。

(委員)

私はあちこちでコーラスサークルに入っているが、団体によって関係がうまくいっているところとそうでないところがある。違いは、やはり車座になって話ができるかどうかだと思う。うまくいっていない方では、関わりたくないから、メールの返事もしないし集まりにも行かない人がいる。やはり顔を合わせて、いやなことも話し合える間柄が必要。生涯学習は楽しくないといけないし、楽しさを伝えていくことも社会還元だと思う。「車座」「膝を突き合わせて」などが報告書のタイトルにも反映されればと思う。「自立・自律」では内容が連想できない人も多いのではないかと思う。

(委員長)

他市の地域センターで6年ほど続けている講座があり、現在来年度のカリキュラムを作成中だが、「場」をテーマに考えている。良くないのはスマホ等のおかげで、「場」ができると勘違いしてしまうことだと思う。便利であるが、「場」ではない。顔を合わせてのやりとりを避ける社会になってしまっている。現状を考えると、地域の間人関係が薄れ、私は危機感が募っている。しかし我々は「社会教育とは」とえらそうに言い出したら終わりだ。

コミュニケーション学会の関西支部で、役員の関係がうまくいっていない。これは中心になっている人がメールに頼りすぎだから。飲食したり、顔を合わせて話すということも必要なのでは。会議の場などを毎回行うのは難しいが、メールばかりで済ませてしまうのは良くない。一方で、こういうもの(メールや SNS)が進んでいく社会をどうすればいいのかと思うが、全然見えない。この流れは止められないだろう。先ほど話した葬式の席で、年配の人と顔を合わせてどう接したら良いかわからない若者は、ずっとスマホを見ていた。

(委員)

最近電車でも、みんなスマホをしていて、新聞を読んでいる人が少ない。

(委員)

毎日電車通勤している人からは、以前よりはましになったと聞いている。ポケモン GO のブームも去り、最近少し本を読んでいる人が増えたなど話していた。一時は集中しすぎて周りが全然見えていない人もいたが、彼いわくスマホに飽きたんじゃないかと。でもニュースを見るのも本を読むのもスマホでできてしまうので、結局そっちに流れるかもしれない。

(委員長)

最近 TV で見たが、最近はインターネットでフェイクニュース(嘘の記事)を作っている人がいるという。それは極端な例だと思うが、ニュースをネットで見るのと、新聞を読むのとは全然違うと思う。新聞では紙面を見ると、興味のない記事でも目に入ってくるが、ネットでは見たいものしか見ない。こういうことがトランプ現象を生み出しているのではないかと思う。つながりのなかった、内向きで、見たいことしか見ない人たちが SNS 等で集まって、力を持つようになってしまった。よく考えると怖い社会だ。

また、家庭教育の分野でよく聞く言葉に「人を集めたければ子どもを呼べ」というのがあり、確かに子どもを巻き込めば親が来るので、うまくこの方法を使えばと思う。

(委員)

ペットもいいと思う。

(委員)

先日のまなびんぐでも子どもがたくさん来ていた。他の地域のショッピングモールでは、フロアによってじゅうたん敷きのところとフローリングと、施設内で使い分けているところがあり、子どもが転んでも大丈夫なので、子ども向けにはいいアイデアだと思った。

(委員)

「自立・自律」は、委員の報告全体を見て感じられたのか。

(委員長)

いや、今回の提案では我々が何か働きかけたいと思っており、その目的は自立・自律した市民を作ることだと思ったため。言葉にこだわりはない。

(委員)

課題を見て何を考えるのか、どう取り組んでいくか。各委員の報告を見て、「自立・自律」であれ、「社会還元」であれ、見えてきたものをタイトルに入れていければ良いと思う。そこに我々のこだわりがあれば良い。課題としては、つながりの希薄、「場」のこと、それぞれの活動の発信方法についてなどが出ている。抽象度が高い言葉だとあいまいになってしまう。今後、軸になるキーワードを入れていけば。

(委員長)

その通りだと思う。タイトルはみんなで決めたい。山城地方でも京都府でも社会教育委員連絡協議会の研修会等のテーマ名がよく議題になるが、多少ずれてもいいように考えると、結局漠然とした、同じようなものになってしまう。

案に「社会還元」という言葉が出ており、「市民が主役の生涯学習社会」とあるが、それはもう実現できていると思う。良い意味ではないが。つまり利己的な生涯学習者、これは社会還元にはつながっていない。

(委員)

「生涯学習の主役とは」や「社会還元とは何か」という問いかけをしてみてもは。

(委員)

そもそも自分勝手な学習者は、「生涯学習」だと思って活動していない。

(委員長)

生涯学習社会を作ろうと、行政も「場」を作って頑張ってきたが、その結果利己的な学習者たちが出てきた。彼らは、自分たちがその主役であると思っている。だから場所取り合戦になってしまう。

(委員)

彼らはよかれと思ってやっている。

(委員長)

よかれと思ってやっていることがとんでもないことを引き起こすこともある。一時期、老後のことを考えようとよく言われたが、それはもうできていると思う。私もその世代にかかってきて、周りを見ると、皆趣味などを持っている。現在、山城地方では宇治だけが「生涯学習審議会」で、他はみな「社会教育委員会」である。

(委員)

「社会教育」というと行政が押し進めていく、「生涯学習」というと市民が主体的になっていると感じる。まなびんぐに参加してみて、「場」を提供するのが行政で、活動するのは市民だと思った。どのサークルも出発点は行政の開催する講座などで、そこから出た人がまた集まって活動を始めている。どの団体も、次は何をしようかと話していた。

(委員長)

以前は、主体的に集まれない人たちが、行政の作る「場」をきっかけとして集まっていた。それはいいことだったと思うが、今は SNS で、中学生でも自分の部屋にしながら TV 放送するなど、「場」は初めからあるものになっている。「場」というものが分からないのに、いきなり世界に向けて発信するのでトラブルが起こる。今は逆に、主体的にさせないよう、止めなければならない。

(委員)

SNS の最初の S は「ソーシャル(社会)」で良かったか。

(委員長)

「ソーシャル」だ。それだけ社会に広がっているということ。トランプ現象も SNS に根差している。ツイッターで挑発的なことを発言している。

(委員)

メディアもいろいろ言っていたが、結局アメリカはトランプ大統領を選んだ。いずれ「日本は移民を受け入れるのか」という問いかけを突き付けられるだろう。TVも新聞も触れない。島国だから入ってこないだろうという感覚なのか。受け入れたらどうなるのか。また税金をたくさん払わないといけなくなるかもしれない。

(委員長)

私は、(地域の関わりや人間関係が希薄になっていく)現在の状況にとっても危機感を抱いている。これからとんでもない方向に進んでいくのでは。その思いが日々強まっている。

(委員)

思いついたのは、「SNSからFTF(Face To Face)へ」というのはどうだろうか。今の議論のこを受け取ってくださった表現にしてみたが。

(委員長)

後半のところはその辺りについても書こうと思う。

(委員)

山城地方や京都府の研修等で宮津市から笠置町まで行ったが、フェイストゥフェイスはキーワードになると思う。どこでも催しの際は、顔を合わせて取り組んでいる。以前、行政の職員を呼んで、地域で防災関連の懇談会をしたことがある。そこである人が、危機管理のため、子どものことで「車がたくさん入ってこないよう、行政が朝道路を封鎖してほしい」と発言した。それに対して85歳くらいの人が「(行政に任せず)毎日犬の散歩をするなら、自分の孫を見守りに行け」と言われ、その人は何も言い返せなかった。

(委員長)

公園で子どもが事故に遭うと、行政が訴えられる時代だ。

(委員)

安全策を考えると規模を小さくするなどし、結局何もできなくなってしまう。

(委員長)

期限までにタイトル案、自分の報告の部分を考えてきてもらって、メール等で事務局に提出してほしい。まえがきのところは、その辺りを踏まえて、もう少し考えて作成したい。

(委員)

今回も提案だけで終わらないように、決意を盛り込まないといけない。2年間かけて提案を出して終わりではもったいない。自立というのは我々の社会教育委員としての自立でもある。動く社会教育委員でありたい。ひとつでもいいので何か実現できたらと思う。

第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

(委員長)

今までの提案と違って今期の提案は、我々がやるということを書いていきたい。

(委員)

我々が市民としてではなく、審議会委員として行動することの意義というものをはっきりさせていきたい。

(委員長)

注意したいのは、我々が「社会教育とは何か」ということをえらそうに説いてはいけない。我々も市民を巻き込みながら、市民と共に学んでいく姿勢でありたい。

(事務局)

今回みなさんから出されたキーワードや意見等をメール等でお知らせするので、ご確認をしていただき、タイトル案の検討や各自の報告部分の校正をお願いしたい。

3. その他

➤ 宇治市教育の重点「社会教育の重点」について

(事務局)

後日資料を送付する。何かお気づきの点やご意見等があれば、平成29年2月20日(月)の午前中までにいただきたい。

(委員長職務代理)

本日は、2年間かけて取り組んできた今期の報告に向けて議論を進めることができた。次回が今期の最終回となるが、良い報告書ができるようにしたい。

<次回の会議について>

平成29年4月26日(水)午後2時から 生涯学習センターにて